

「子供達を主の教育と訓戒によって育てなさい」エペソ6：4 17・12・3

I 文脈、鍵の御言葉＝

「ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい」
5：18。

まず、神の恵みに、御霊に満たされる事なしには、自分の力では、御言葉を実行する事は出来ない。
もう一つの鍵、原則＝

「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」5：21。

これが根底にある。主の恵みに感謝し主を恐れ尊び、互いに従う、仕え合う心が大切。

「はい」と「いいえ」を愛を持って言える関係。支配しない、支配されない関係。

これなくしては、良い人間関係は生まれない。

神から離れた世は、神の正しい基準、秩序、それを行う真の力を失っている。悲惨な事件が多い。

人には、主の恵み、救い、いのちの御言葉の教えと力がどうしても必要！ますます明確になって来ている！

人間の片寄った価値観による教育改革ではなく、正しい土台、命ある御言葉が必要。

私達が、地の塩、世の光として真の救い主と御言葉を、真の希望と真の基準を失った今の世の人々に確信をもって伝える事が出来る事を感謝したい。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」(伝道者の書12：1)。

II

1. 「父たちよ」：4。

父は、秩序ある権威の立場、神から与えられた正しく導く責任、使命が与えられている。幼い子供達が、母親にだけ相談するのではなく、父と母に相談する。妻も夫を立て、自分だけで進めず、夫と共に相談し判断する。子供はどちらに実権があるかを察知する。子供のしつけ、養育は、父と母、両親の仕事、責任。父と母がバラバラではなく、主にあって一致して子供を育てる。「父たちよ」には意味がある。父親や夫が家庭における自分の立場、責任を放棄し、ほとんどを母親に任せっきりにならないように。ここの御言葉は、父親にだけではなく、母親に、若い人々を指導し、導き育てる立場の人々にも適用できる。また互いの人間関係のあり方に適用できる素晴らしいバランスのある教え。

2. 私達人間の問題、弱さは、一方の極端か、他方の極端に走ってしまう事→

①子供をしつける事を一切しない。自由奔放にさせてしまう。それでは、子どもは健全に育たない。人間は罪をもって生まれて来るので、自由のままなら罪のままとなる。

②反対に、愛も思いやりもなく、子供を縛り付け、がんじがらめにする極端。これらの極端を聖書は教えていない。聖書の教えの特徴は、完全なバランスが取れている事。決して片寄らない公正さ、恵みとまこと(大切な戒め)が両立している。

「この方は恵みとまことに満ちておられた」(ヨハネ1：14)。

私達を育てて下さる主、真の羊飼いは、「恵みとまことに満ちておられる」。

3. 「自分の子どもたちを怒らせてはいけません」：4。

子どもが、親に「従い」「敬う」義務を持つ(エペソ6：1-3)のと同様に、親も、子どもへの大切な義務、責任がある。父たち、又は親は、又は指導者、教師は、子供、生徒、部下から従順と尊敬を引き出す愛の責任(まず恵みとまことを示す)がある。

「子どもを怒らせてはいけません」。

①子供が悪い事をした時、叱ってはならないの意ではない。愛をもってしかる、注意をする事が大切。

「父がいとしい子を叱るように、主は愛する者を叱る」(箴言3：12)。

②まず御霊によって自制し自らの気分を御霊によってコントロールしていただかなければ、子ども、生徒、部下への真の訓練、しつけはできない。それ故に5：18が鍵。酒に酔ったまま（冷静さ、制御の欠如）子供、生徒、部下を正しく指導する事は出来ない。それこそ、子ども、生徒、部下、弟子を怒らせる事。自らが感情的になっているなら、良い指導より、害を与えてしまう。頭がかっとなって、激情に身を震わせながら暴力を振るうなら、子供を、生徒を、部下を、弟子を正しく訓練する事はできない。

「望みのあるうちに、自分の子を懲らしめよ。しかし、殺そうとまで考えてはならない」（箴言19：18）。

③まず親自身、教師、指導者自身が、恵みとまことに満ちた神、主の御言葉による教育と訓練（失敗を反省し、そこから謙遜に学び、聞く耳を持つ）によって育てられ続けなければならない。その為には、毎朝、御言葉を読み味わい、礼拝の説教で養われる必要がある。まず、親自身、教師自身、指導者自身が御霊（神の愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）に満たされ続けなければならない。反発、挑発を受けても、かっとなって反応してはならない。それでは、正しい判断、ただしい訓練、指導、しつけはできない。

④気まぐれ、日によって違うお天気屋で接してはならない。

ある日は、気分で甘やかし、ある日は感情的に激怒してしまうなら、子供や指導される側は、当惑し、親を、指導する人を尊敬できなくなる。主にある一貫性が大切。親自身、教師、指導者、上司が、一貫性のある間違いのない聖書の御言葉を感謝し御言葉に教えられて歩むなら幸い。子どもは、生徒、弟子は、親、教師、上司を観察し、見つめている。そこから見習う。

⑤子供、生徒、弟子の声に耳を貸さないようであってはならない。

子ども、生徒、部下、弟子の気持ちを聴く。主に祈りつつ、真実に聞き合い、語り合う。

エペソ4：25。

これがない時、子供、徒、弟子、社員を反逆、敵対関係、断絶、自死へ追いやってしまう。

⑥子供や生徒には子供自身の人格、その子の人生への主のご計画がある事を認める。

子どもや生徒や弟子は、親、指導者の所持品、所有物、言うなりになるロボットではない。子供、生徒、弟子は、神が預けられた大切な人格である。親や指導者、教師の希望、夢を子供に押し付けてはいけない。助言はして良いが、最終的な判断、決断は、子供自身が、恵みとまことに満ちた神に祈りつつ決断できるように育てるのが良い親である。

⑦子供の個性（神は、人に、一人一人、ユニークな個性を与えておられる）を重んじつつ、成長段階で接し方を祈りつつ調整する。

素直な時、御言葉を共に学び、反抗期（親からの自立への段階に、子どもが、もがいている時。子供自身が自己理解、自己受容に苦しんでいる時）の時、祈りつつ主に委ね、そっと見守り祈り、主に委ねる。忍耐の時。神は働いて下さる。

i しっかり抱き、御言葉をしっかり教えるのに時がある。

ii 巣立つ準備をさせるのに時がある。

iii 父、母を離れる、自立するのに時がある。親の側も子離れに時がある。

iv 子供との関係の前に、夫婦の関係を築いていく事が大切。主にある自分の人生を築いていくのに時がある。

v 親の恩に報いる（Iテモテ5：4）のに時がある。

「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」ピリピ1：9，10